

青梅市文化財ニュース

第418号

令和4年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

ハシボソガラスのクルミ割り行動

青梅市では、これまでに5種のカラスの仲間＝スズメ目カラス科の鳥類が確認されています(奥多摩支部目録作成チーム、2014)。その中でもハシボソガラスとハシブトガラスは全身が黒く、鳴き声も賑やかなため、目につかない日はないといっているくらい身近な野鳥です。

カラス科の鳥類は全世界で100種類以上いますが、知能が高い種類が多く、中には道具を使うカラスも知られています。日本でも、他の鳥類に見られないような様々な行動—例えば水道の栓をひねって水を飲む、石鹼やろうそくを持ち去るなど—の報告があります。中でも、ハシボソガラスが行うクルミ割り行動は日本中で報告があり、青梅市でも複数の観察例があります(御手洗、2012)。

写真1～2は平成23(2011)年10月に青梅市友田町地先の多摩川河川敷で観察したクルミ割り行動です。クルミは多摩川河川敷に多く生育するオニグルミで、種子は硬い殻くわに覆われています。クルミを啜くわえたハシボソガラスはほぼ垂直に飛び上がった後(写真1)、20m前後の高さからクルミを真下落とします(写真2)。



写真1 オニグルミを拾い上げ飛び立つハシボソガラス



写真2 オニグルミを落とすハシボソガラス

たいていは1回の落下で割れることはなく、飛び上がっては落とす行動を何回も繰り返します。落とす高さはおおよそ一定ですが、これは、落とす位置が低すぎるとは地面に衝突した時の威力が十分に得られませんし、高すぎると落とす場所をコントロールできなくなるためと考えられます。また、河川敷でも砂地が広がっていたり、植物が生育していたりするところではなく、クルミに衝撃が与えられるような丸石が広がる河原を選んでいるようです。そのため、同じ場所に割れたクルミの殻がいくつも散乱していることもあります。

ハシボソガラスのクルミ割り行動は、青梅市では友田地区から御岳地区まで多摩川で観察例がありますが、市内の他の河川では今のところ報告されていません。多摩川以外は河川敷が狭いため、クルミ割りがあまり行われられないのかもしれませんが。

ハシボソガラスを含むカラス類は市街地でもよく見られ、ゴミを漁る^{あさ}イメージがあるかもしれませんが。しかし、よく観察していると、青梅市の自然環境の中でその条件を生かした生活史を垣間見ることができます。

<参考文献>

御手洗望. 2012. 東京都内でのカラスのクルミ割り行動. ユリカモメ (677) : 15. 日本野鳥の会東京.

奥多摩支部目録作成チーム. 2014. 多摩の鳥 鳥類目録 2000-2012. 295pp. 日本野鳥の会奥多摩支部.

(文責 御手洗望)